

20m050発表記録

準備



教材づくりの発想

51:27

制御を要求

General で会議中

自動保存 ● オフ

教育方法論 予習課題05 レポート この PC に保存済み

ヘルプ サポートへのお問い合わせ... フィードバックを表示 トレーニングガイド

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 検索

共有 コメント

この会議で (23人) 全員をミュート

参加者

名前を入力

北 船 河 笠 関 橋 橋 山 小 松 水

1/1 ページ 行: 1 640 文字 日本語 挿入モード

+15 橋 水 野 船 村 演 中

The screenshot displays a Zoom meeting window with a Microsoft Word document open. The document's title bar reads "教育方法論 m". The main text area contains several paragraphs and bullet points discussing educational concepts. Key phrases include "新しい時代の教育方法", "上からの道", "下からの道", and "教材作りの発想". The Zoom interface includes a top status bar showing the time as 51:27 and a button labeled "制御を要求". On the right side, there is a sidebar for participants, currently showing 23 people, with a search bar and a "全員をミュート" (Mute All) button. At the bottom, a row of circular icons represents individual participants, with names like 北, 船, 河, 笠, 関, 橋, 橋, 山, 小, 松, 水 visible.

班のテーマ 教材作りの発想

- ・ 上からの道：教科内容から教材へと下降→教科内容の教材化
- ・ 下からの道：教材から材料内容へと進む→素材の教材化
- ・ 教材作りには「創り出す」と「解釈し直す」の2つの側面がある。
- ・ 学習教材を開発するのに当たって学習の目的が明確化されなければならない

肯定的な意見

- ・ 学習しやすい・わかりやすい・内容の信憑性の高さが重要
- ・ 興味関心・意欲・追求心引き出す必要がある。

否定的な意見

- ・ これまでの教材作りは基本的に上からの道のみの発想である。

班としてのまとめ

教科を問わず教材を作る際上からの道、下からの道の両方の概念から創り出す必要がある。
また子供たちにどのような意識などを身につけさせたいかを具体的に設定されている必要がある。

キーワード

・ 上からの道 ・教科内容の教材化 ・下からの道 素材の教材化 ・2つの概念 ・学習
実態 ・教師が自主教材を作成 わかりやすい 内容の信憑性の高さ 学習しやすい 創
り出す 解釈し直す 具体性 検証可能性 意外性 予測可能性

メディアとしての教材

01:04:27

制御を要求

General で会議中

参加者

名前を入力

この会議で (23 人) 全員をミュート

北
鮎
河
笠
関
橋
橋
山
小
松
水

1/2 ページ 1108 文字 日本語

教育方法論 m 第 5 回□□□□テーマ「メディアとしての教材」2 班□番号 st10 名前□野村駿斗

(1)→「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

授業では、教科書の内容だけでなく、さらに新しい発見に導いたり知的好奇心を高めたりするような学びの体験をさせる必要がある。

ポイント 1)メディア・リテラシーの素材として教科書を活用すること。複数の教科書を比較したり教科書本文を原典と比較したりする。

2) (1) の読み比べをすることによって同一作品でもその構成や表現の違いに気づく

3) 2 つの比較をして自分ならどちらが良いかについて考える。

4) メディアを使いこなして自由にしようとする主張とメディアを制限して秩序を守る主張の論争

(2)→「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●□「17 中学校学習指導要領解説」より第 2 の 2 の(1) に示す情報活用能力の育成を図る観点から、学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要環境を整備する。

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (メディアとこの教科)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (新しい学習の場と学習の目的)

- ・教科書だけでなく、教科の教科書
- ・その教科のメディアの比較
- ・それは表現の相違を教える

■肯定的 web (指導要領)

まとめ (適切な指導と学習の場)

- ・生徒が主体的に学ぶことが重要
- ・主体的に考え、他者と協力する
- ・この教科書、教科と教材に活用できる
- ・教師は教材の操作に習熟する必要がある
- ・なく、これらの教材を理解し、活用する必要がある

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

- 情報の信頼性へ関係あり
- ・しっかりと教育者として生徒の主体性を考える必要があると教える

■否定的 web (CC: BY-NC-SA) マーケティング

まとめ ()

■班としての要約

まとめ (メディア・リテラシーの重要性)

- ・情報社会におけるメディア・リテラシーの重要性
- ・教師も情報社会に対応していく必要がある
- ・研究を行う意義がある

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・情報化
- ・メディア
- ・メディアリテラシー
- ・生徒
- ・主体的
- ・比較
- ・必要
- ・責任
- ・メディアの特性
- ・情報活用能力

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ ()

教材概念の拡張・電子黒板

01:20:46

制御を要求

参加者

名前を入力

この会議で (23 人)

全員をミュート

北

鮎

河

笠

関

橋

橋

山

小

松

水

Adobe Acrobat Reader DC

教材m第5回予習「教材概念の拡張・電子黒板(8章3節)」.pdf

ホーム ツール

1 / 1

100%

教育方法論 m 第5回テーマ「教材概念の拡張・電子黒板(8章3節)」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点● 知識伝達型の授業から協働的・対話的な授業にするため、必要な教材の概念の拡張。

ポイント

1) 教育の材料・素材として教材概念から学習概念への転換。

2) 子どもたちの発言・文章(=子どもたちの思考を促すもの)すべてが学習材。

ただし、一般的・常識的なレベルの意見、または、ほぼ全会一致な意見は学習材でない。

3) 2)から子どもたちの話し合いや討論が展開される。(一斉授業もグループ学習も含む)

4) このような学習形態を進めるうえで電子黒板の活用が進んでいる。

(2) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点● 教材概念と学習概念との関係性

ポイント

1) 「教材・学習材論」という言葉があり、教師から、または、子どもたちから教材を扱うことで、学習内容にばらつきが生まれる。(=学習材に限界がある。)

2) 学習材の概念は重要であるが、教材性をどのように保証するかが問われる。

3) 教材概念から学習概念に移行したとしても教育実教学としても基本的な要件は失ってはいけない。

4) この教育の変化には教師の意識変革も必要である。

(3) 自分の意見

全体の要点●

ポイント

1) 教師から子どもへ向けての授業でなく、子ども同士で作る授業は今までにない形で新鮮に感じた。

2) 基本的に授業で発言する機会がなく、育てるべき人間像を育成できていないため良いと思った。

3) だが、急に学習観を変えることは難しいのでどのように、どの程度変えていくのかが、重要であると思う。

+15

松

鮎

中

河

橋

野

船

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ 教材概念の拡張 ()

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ 教材概念から学習材概念への転換

- ・教材(知識を教えるための材料・素材)から学習材(学び合うための素材・材料)へと変わりつつある。
- ・それにより、一斉授業やグループ学習のなかで、話し合いや討論をしたり、電子黒板を活用したりしている。
- ・協働的・対話的な授業をする。

■肯定的 web 教材概念と学習概念との関係
まとめ (学習材のメリット)

- ・子どもたちの発言や文章自体が教育の材料になっている。
- ・社会で求められる知識・能力を育むことができ、主体的・対話的な深い学びができると期待される。
- ・電子黒板などを用いることでより効果のある学習材となると考えられる。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■

発表の中で、学習材に変わったときのメリット・デメリットについて話が出たように、学年に応じた話し合いや討論のレベルがあるし、求める学習材の内容が変わっていると気づいた。

■ 5 段階班の自己評価 (4)

■否定的 web (教材概念と学習概念との関係
まとめ (学習材のデメリット)

- ・学習材に対して重きを置きすぎると学力の根本といえる知識・技能の習得が怠ってしまう恐れがある。
- ・学習材は学力定着にばらつきが出てしまう恐れがある。
- ・教育の場での変化に教師も子どもたちも対応していかななくてはならない。

■班としての要約

まとめ (教材から学習材への転換)

子どもたちが杜旗に出て活かすことのできる資質・能力を修得するための材は何なのか、授業形態は何なのか考えていく必要がある。

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・知識伝達型の授業
- ・協働的・対話的な授業
- ・教材
- ・学習材
- ・発言・文章
- ・話し合い・討論
- ・一斉授業
- ・グループ学習
- ・電子黒板

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■

学習材を用いた教育をすることで得られる資質・能力は従来の教育より断然高いと思う。なので、これからの教育には協働的・対話的な授業が必要度と思った。

ICT活用例

[illegible]

教育方法論 20m 班まとめ (授業者が書くこと)

第5

各班ワークシート(模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと(指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ(ICT活用例)

■学年・単元・本時の内容(提示する教材)

中学三年生,理科

月と恒星の動き方

■目標、内容・指導の概略等

- ・ICTを活用することで疑似的に天体観測を行う。
- ・動画を使用し、天体の動きを分かりやすくする。
- ・タブレットを使用し、時間毎の月や星の位置を調べ、まとめて発表する。

2) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 星空を画面にすることは初めてだと難しいので、事前学習が必要となる。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 豊富な教科書から適しているものを選び、比較的選んでいく必要があり、単に教科書の内容をなぞるだけではいけない。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

・タブレット端末
パソコン
スクリーン

・天体の動きが日時によって変化することと理解ができていたかどうか。

■工夫した点、出典等

実際に天体を観測すると、天候や時間の都合があるが、ICTを活用することでいつでも行うことができる点。

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■

教科書を用いて、一般的な座学を行うだけでなく、生徒の対話をねじったり、使用する教材を工夫することでより生徒たちにとって、魅力的な授業にしていくことができる。

ICT活用例

01:45:38 "General" で会議中 制御を要求

自動保存 2025/10/10 10:10 docx - 最終更新日時: 2 時間前

ファイル ホーム 挿入 描画 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 検索

MSゴシック (見出し 10.1) A Aa 背景色 文字色 罫線 表 図 挿入 削除 複製 貼り付け

あア亜 あア亜 あア亜 あア亜 あア亜
標準 行間詰め 見出し 1 見出し 2 表題

検索 置換 選択 編集 音声

ICT 活用例
5 班

1. 単元
高校化学基礎 アボガドロ定数と物質質量
2. テーマ
モルを知る
3. ICT 活用のねらい
・授業前、授業後の理解度チェック
・ペーパーレス化
・板書を無くして効率を上げる
4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面	ICT 活用の手順 ○事前に予習となる資料を配布しておく ・ classroom ○予習をした段階でどれほど理解できたかを小テスト ・ forms ○授業後にもう一度理解度チェック ・ forms イメージ図など	○事前の小テストは「わからない」という回答を OK としておく ○記述式

参加者

名前を入力

この会議で (23 人) 全員をミュート

北 船 河 笠 関 橋 橋 山 小 松 水

+15 野 北 橋 船 関 濱 藤

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用例)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

高校2年

化学基礎

アボガド定数と物質質量 / モルを知り

■目標、内容・指導の概略等

授業前→授業後にかける。

理解度の向上を図る。

① 予習を行い、いざ、理解度チェックのための
小テスト (google forms)

② 授業でミスと学習できたか、理解度チェックの
小テスト (google forms)

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 自分が発表した。

~~XXXXXXXXXX~~

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ ICTを用いて、理解力向上を図る。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

2回の google forms の点数がどれほど
上がったかを評価する。

(同じ小テストを行うと、理解度向上が
わかりやすい)。

■工夫した点、出典等

google forms, google classroom を使用する点。

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

■
~~XXXXXXXXXX~~

確認問題04

01:52:53

制御を要求

🗨

💬

👤

⋮

🔊

🎤

📶

🚪 退出

General で会議中

参加者

名前を入力

この会議で (23 人)

全員をミュート

北

貼

河

笠

関

橋

橋

山

小

松

水

+15

橋

船

関

濱

村

藤

村

各班ワークシート(確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ

各問のポイント

- 問1 教育目標の理解
・教育目標
・教育内容
・教育手段
・教育目標の3つから

■問2

記憶・理解・想像・形式論

それぞれの領域における知識や技術を理解
→ 学習過程を振り返る
他者の学習過程を振り返る
学習を進める → 概念的な理解を
深める

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■ 各問題分を適切に知り、気づいた
点、気づくことの大切さを伝えて
いく。

2*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべ
よ。

■ 教育目標を指定する際は、何を教える
かを明確に定め、教育目標を達成
するのに必要な327か大まかに
分けた。

■問3

問3 漢一水 規定は「教育目標を
とて、できるだけの手段で、与える
内容に教育・社会性をとる 教育目標
をいけるようにする 学習目標によって 教育目標
を定めることである。

■問4 フォーム 分類体系 (93/11)

「認知領域」「情報領域」
「精神運動領域」
それぞれの領域の目標を
達成させる内容から 並べた内容
へと 階層的に並べ列 する 分類方法。

2*) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ
いて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 大体は、他の班が論べていた
内容と同じ事を書けていた。一部と
え方の違いによってまとめのポイントが
異なったり、質問などを通して解決でき
てよかった。